



めだかの園(生活介護)

「赤ちゃんからお年寄り、
障がい者も共に生きあう社会をめざして」

(有) いわてにつかコミュニティ企画 代表取締役 吉田 ひさ子 氏

めだかの学校
地域の茶の間



困っている人がいたら迷わずやるだけ！

代表取締役
吉田
ひさ子氏

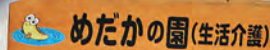
吉田氏が岩手日化サービス
株)に入社したのは、1998

して交通安全母の会、子供会、PTAの役員等様々な地域の役員を経験しました。

役員を経験しました。

1年4月のことです。1983年、当時の社長と結婚し、翌年長男が生まれ子育てに専念することになりました。そ

1996年転々としていた本社を地元根付かせるために、新社屋を建設することになりました。これをきっかけ



に会社に戻帰することになります。当時、経営理念の中に「地域と共に」を掲げていましたが、地元の新社屋を建てたことがきっかけで、自分たちが長年住み続けてきた地域のことを全く知らなかったことに気づきます。中小企業にとってどれだけ地元、地域が大事か。「同友会に入っていたから気づくことができた」と話します。

仏壇に「やさら」をあげてほしい

そんな気づきから地域を知
るために発行することになっ
たのが情報誌「やさら」でし
た。地元学に基づいた地域の
宝物探しです。地元の80代、
90代のおじいちゃん、おばあ
ちゃんの人生を丁寧にも
聴き、物語風にした「人生いろ
いろ」。ある方は、亡くなるとき
に「仏壇にこれをあげてほし
い」と家族に言ったそうです。

そして地元学の先生をお招きし地域の良さを知らすために、地域の住民の皆さんと繰り返し学びました。また、地域の屋号の由来を残すために、足で歩き数百件の屋号地図づくりにも取り組みました。こうした住民や企業とのネットワークづくりから、地域の宝物と歴史を知る観光

コースづくりなども地域情報紙「やさら」に掲載し伝え続けてきました。

3ヶ月に1回発行してきた「やさら」は現在70号。最近では方言を特集し、地域に残る方言を一人ひとりに向きあい、記録し続けています。8年後の「100号実現をしなければやめられない」、と取材継続中です。

バーのある施設の笑顔

そんななか、後継者問題がでてきました。吉田氏はそのとき「本当に自分がやりたいのは何だろう」と次第に思うようになります。その中で見つけたのが子育て中に引き受けたあらゆる役員の経歴があったことでした。「人と関わる仕事なら私にもできるし、人と関わる仕事をしたい」と次第に思うようになります。ただ、この時点ではそれが介護ということは見えていませんでした。

そんな時に2003年に大阪で開催された中同協第10回全国女性部交流会（現在は女性経営者全国交流会）があり、ある女性の理事長の講演を聞きました。施設というと規則が強いイメージを持っていましたが、その施設はバーがあり、徘徊する方と一緒に歩き、

近所の居酒屋で一緒に飲みます。そんな施設で過ごすお年寄りの方々の笑顔を見て驚きました。

「してあげる」から「させて
いただく」に

記念講演に立ったのは社会
法人尼崎老人福祉会 理事長
の市川禮子氏です。市川氏が
お年寄りの介護事業に携わり
始めた頃、まだ日本では一人
ひとりが個室化された部屋で
過ごすのは一般的ではありません
でした。しかし当時から
何度も北欧を訪れ、最もその
人らしく暮らせる生活、これ
までの生活スタイルを継続で
きるような施設を具現化して
いきました。その後、後追いで
個室の特養ホームを国が制
度化していきますが、人の幸
せを追求していく姿に衝撃を
受けます。

「特養に入ると生命力がしぼんでしまう、生命力をしぼませない施設をつくりたい」と。私たちが「ケアをしてあげる側」ではなく、入居者が自分で暮らす場をつくる主体となつて、できないことだけを手助けする。つまり「させていただく」という当時では真逆の考え方に、介護のイメージが大きく変わることであります。

ある女性の声が人生を変えることに

そして始まったのが、乙部地域の「地域の茶の間」です。2005年のことです。月に一度地域のお年寄りが誰もが集い、午前9時から午後4時まで昼食を挟んで趣味や、おしゃべり、歌などを楽しんでいた。ただ、場で、昼食付き450円。訪れやすいように送迎もしながら、地域のお年寄りの声を聞いてきました。

吉田氏が嫁いだとき、はじめて入った寺の下のおベテラン主婦の皆さんは、とても優しく迎え入れてくださり、支えてくれました。時に愚痴も聞いてくれたりお裾分けし合ったり。お世話になった大先輩の方に自分ができることをしたいとの思いもありました。そんな時、その乙部でお世話になった一人のお年寄りが、身寄りがなく乙部から出て行かなければならないということが、わかりました。「ここで人生を歩んできた人が、地域から出て行かなければならないのはおかしい」と、一人のための居場所をつくることを決意したのです。

赤ちゃんからお年寄り、そして障がい者まで

自分ならどんな施設を実現

できるだろうかと探り続けました。ある時、研修で「富山型民間デイサービス」を知ることになります。赤ちゃんからお年寄りそして障害者も共に利用できるのです。その時「これだ」と思いました。自分の身の丈にもあっている。何よりも地域に密着していると思いました。

2007年4月、最初の「デイサービス」は築50年の古い民家でスタートしました。お年寄り、障がい者、赤ちゃんも含め、みんなが気楽にお茶を呑みに来る。そんな場所になればという想いから古民家になりました。ここで公民館などで移動しながら続けてきた「地域の茶の間」の開催を古民家に固定することが出来ました。

しかし吉田氏と看護師、生活相談員、調理師の4人でスタートしましたが、最初の利用者は1ヶ月間誰もいませんでした。そこで他の施設にもお願いをし無料で受け入れたらいいとお願いをしたところ、自殺をほめかす、食事をしないなどの理由で引き受けを頼まれたお年寄りがありません。スタッフは反対しましたが、先の市川さんの施設を見た経験もありました。また「富

山型」は誰でも受け入れるサービス。そのために私たちがいる、と入所を引き受けました。

「めだかのデイサービス」には、10ヶ月の子や、1才2ヶ月の子も依頼されました。後ろ向きだったそのお年寄りも、小さな子どもたちの笑顔に毎日触れる中で、自分に出ることを見つけ、前向きに関わるようになりました。

中小企業の連携で想いを実現へ

そして2009年住宅型の有料老人ホーム（14床）「めだかの家」を建てました。ヘルパーを入れる形だけだと一生お預かりできないと思い、この有料老人ホームに「デイサービス」を併設しました。輸入木材は使わず全て岩手県材を使用し100年ものの梁を4本使用しました。設計から施工まで同友会の会員企業です。そして中央に広がるロビーから見える四季を彩る小庭も、造園業を営む会員企業。掘りこたつ、薪ストーブ、広いフロアが特徴的で昔ながらの暮らしができる、3社の連携で実現した木造の住居型有料老人ホームでした。建築基準法の問題ですべてが木造というのは、大変な難関でし

た。しかし同友会の仲間は折れずに何度も何度も消防関係とも交渉を続け、実現したのです。

翌年には2棟目の有料老人ホームと児童デイサービスも併設しました。児童デイサービスは、最初の50年の古民家で老人デイと障害のある子どもたちと一緒にでしたが、長期の休みになると朝からお互いに変な言い方で子どもたちだけの専用の家を借り、ここを拠点に老人デイと交流することで開設をしました。

この14年で「デイサービス3ヶ所、そして訪問事業のヘルパー、そして訪問看護有料老人ホーム「めだかの家」を3ヶ所とめだかの「児童デイサービス」3ヶ所と全部で6つの施設まで広がりました。

ホームのきつかけとなった、おばあちゃんとの出会い

実はここまで来ることができたのもある一人のおばあちゃん存在がありました。その方はご主人を早くに亡くし、女手ひとつで子ども4人を育てながら鉄工所の社長をしていた息子は他界。そして転んだのがきっかけでパーキンソン病を発症しました。その時、お嫁さんと納得がいく施設を

探そうと話をしていました。しかし、この方は前述の「やさら」情報誌の第1号のインタビューの方でした。

「私がこの地にお嫁にきたときから、これまでの間、本当にお世話になってきた女性の経営者の先輩です。普段から住み慣れた地域で暮らせるようにと言いつつながら他の所を探していた自分に気づきました。今更何処へ行かせるのか。このままでは自分が後悔してしまう。この人しか入らない老人ホームかもしれないがこうして始めたのが「めだかのデイサービス」でした。

そしてこう続けます。「言い過ぎかもしれませんが、安心して痴呆症にもなれる地域を実現すること。もうかるかどうかの視点ではない。困っている人がいたらやるだけ。前中同協会長の赤石義博氏が話していた「生きる。暮らす。を守る。人間らしく生きる。」私の人生は、赤ちゃんから障がいをお持ちの方、お歳を召した方、誰もが豊かに生き合える地域を実現するためにあるのではないかと思います。」

支部・地区・委員会・部会・ぼつとライン

盛岡支部

全ての人を幸せにするために

10月27日(水)盛岡支部10月例会がカガヤ肴町ビル会議室とオンラインのハイブリットで行われました。今月は「失敗だらけの人生から学んだこと」をテーマに(株)丸乃タイル代表取締役 内館茂氏よりお話しをいただきました。

大学卒業後、大手の住宅設備機器の会社に就職。28歳の時に盛岡に戻り丸乃タイルに入社します。丸乃タイルを継ぐことは、祖父の時代から当たり前のようになっていますが二代目の父親からは「三代目は苦勞を知らないから会社をつぶす。」と言われながらも夢を抱きながらやっています。そんな



社をつぶす。」と言われながらも夢を抱きながらやっています。そんな

な中2003年に父親の社長が病気で倒れ三代目に就任します。あらたに目標を掲げたのが、丸乃タイルを県内で売上一番の会社にするための拡大路線でした。しかし父親の考えとは真逆だったため常に対立状態。当然うまくはいかず結果、社長を降りることになります。「その時が一番辛い時期でした」と話す内館氏ですが、意を決し2005年(株)理創計画を立ち上げ一からのスタートを切ります。

「自分には人脈と力がある」そう思っていました。気づけば皆が離れていきました。ここで「自分が間違っていた」ことを思い知らされますが同時に、頼まれることのうれしさを感じることもできました。現在、丸乃タイルの代表でもある内館氏。これからは、「丸乃に関わる全ての人を幸せにするために、ここ盛岡で生きて行きたい」と語る内館氏の報告でした。

紫波花巻支部

10月19日(火)紫波花巻支部・エネルギーシフト研究会

10月例会がオンラインで開催されました。報告者は信幸プロテック(株)取締役会長 村松幸雄氏より「SDGsで見るわが街とわが社の100年後のフューチャーデザイン」をテーマにご報告いただきました。

100年後の未来を考える

村松氏からは最初に世界、日本、岩手県、わが町の人口予測、温暖化の現状、食料とエネルギーのグラフをもとに100年後をいろいろな現状視点から見ることにより、企業としてどんなことを考え実行していけばいいのかという課題を確認しました。そしてSDGsの17のゴールを目指す視点から、小さな仕事でもこのゴールに繋がっていることがわかってくれば行動が変わり、新しい仕事づくりになります。「皆さんは100年後どうなっていてほしいですか？また自社はどうか？自社は社会に貢献できていますか？これ



をじっくり考えてみてください。」と村松氏から問いかけがありました。

連携していくことで大きな力に

日本では、人口減少、高齢化と多くの課題があり、一人一社では解決しない事も企業となり課題解決の積み重ねが、未来を変え、持続可能な社会を描く事になります。そのために私たち経営者が100年後も平和でよりよい世の中になるために、近未来だけを見るのではなく、私たちの将来世代を考え地球規模で1人1社が今何をすべきかを本気で考え実行しなければならぬと実感する例会となりました。

県北支部

経営者としての自覚をあらためて自分自身に問う

岩手山麓地区10月例会が、

10月29日(金)小川原自動車钣金会議室にて13名の参加で行われました。今回は「自社の現状を見つめ直し、これからの展望を語りあう」ことをメインテーマに、同友会で長く実践を積み重ねてきた3名の方に最初に問題提起をいただきました。

報告者3人のなかの一人、(有)小川原自動車钣金 代表取締役 小川原一成氏は、自動車業界が大激変しつつあるなかで、軽トラを土台にキャンピングカーや食事を提供できるキッチンカーの販売を強化していることや、敷地内に社員も利用できる新たなスペースを設け、社内で見聞交換を重ねていることなど、新たな社員との取り組みについてご紹介いただきました。

(株)五日市塗装工業 取締役 晴山祐一氏は、ご自身が社長時代(現会長)に経営指針に社員が自らが関わり、行動計画を具現化することで会社が変わっていった実例を紹介、社員一人ひとりがいかに自分ごとになるかが、大きな成長の鍵であることを強調しました。

県南支部

専門家の問題提起にあらためて後継問題を考えた

また住工房森の音(有)美建工業 代表取締役 桜田文昭氏は、毎年の経営指針の発表会を金融機関や協力会社を交えて行ってきたことに触れ、計画を立案し課題を確認し更に行動に移していく課程の重要さと、そのために社員一人ひとりと面談も含めた丁寧な関係づくりが重要であることをご自身の実践事例からお話戴きました。

県南支部11月例会が11月15日(月)一関なのはなプラザで開催されました。今回は「中小企業の働き方改革を考える」をテーマに、社会保険労務士の岩手経営労務事務所代表鈴木克則氏にご報告いただきました。



自分について聞かせるように話す方など、参加者それぞれにとつて気づきの多い例会となりました。

鈴木氏は人事労務の専門家として、地元の間が地元で働けるだけの雇用の場を確保できるよう貢献したいと、地元企業とともに歩んできました。そして出来る限りご要望いただいた社長の想いを形にできるよう、丁寧なヒアリングを重ね、それぞれの社内文化づくりをバックアップしてきました。今回はそれぞれの企業が抱える働き方改革について、プロの立場から法改正や留意点などを、事例を交えて細かく説明いただきました。また特に心配の多い社長の年金問題や退職金問題についても触れていただき、どうすれば国の掲げた施策に対応し



ていけるかの考え方や、後継問題への具体的な整備なども問題提起をいただき、普段は聞くことのできない専門家の意見に耳を澄ませた時間となりました。

参加者からは、「普段から準備してきたつもりだったが、制度も毎年大きく変わるので、もっともっと勉強しなければいけない」という声や、「採用時の個人的な質問も難しい時代になった。どうすれば一緒に想いを共有できる人材を採用できるか、以前にも増して企業の普段の実力がすっかり出てしまうようになった」など、目の前の忙し

さの中ではなかなか目が向かない内容にまで踏み込むことができた例会となりました。

ダイバーシティ委員会

11月2日(火)委員会学習会が同友会事務局3F会議室とZoomオンラインで開催されました。7月の学習会で「働きやすい職場づくりのためのメンタルヘルス基礎知識」を岩手産業保健総合支援センターより講師を迎え学習しました。それを踏まえ今回は第2弾「治療と仕事の両立支援」という内容で同センターより産業保健専門職の萩野とも子氏をお招きし学びました。

誰もが健康になる環境を創ること

治療と仕事の両立支援とは、病気を抱えながらも働く意欲・能力のあるひとが、治療のみを優先して仕事を断念することなく、仕事を理由に治療の機会を逃すことなく、治療と仕事を両立しながら生き生きとワークライフバランスを実現できるようサポートする取り組みです。現在働く



世代で大小と病気の違いはありますが、約7割の人が病気を抱えています。最近では治療の技術進歩により、

特に不治の病と言われる病気も生存率が向上していることから、病気を抱えても約9割の人が就労継続の意向が高いことが全国的なデータと示されています。萩野氏は「センターに相談に来られる方の中で、病気になるっても仕事を続けたいが、会社には伝えづらい、という内容の相談を受けます。ぜひ企業の方にはそうした意欲がある方に対して、環境創りをしていただきたい。ご相談いただければ、一緒に支援させていただき、この職場に来るだけで知らず識らずに誰もが健康になれる環境を創っていただきたいです。」とお話されました。

10月13日（水）、10月29日（金）と2回にわたり青年経営戦略基礎講座がZoomオンラインで開催されました。

第1回目、テーマは「不安で悩んでいるやつ腹割って話そうぜ」明日からの行動が明確になる経営戦略基礎講座」というテーマで川上塗装工業

（株）代表取締役 川上秀郎氏にご報告いただきました。

一人ひとりの問題・課題を明確にする



川上氏は多額の借金、過酷な労働環境、男気だけの経営から一転。経営指針を創る会に参加し、会社の理念をつくり、社員と毎年丁寧に学びながら実践を続け、毎

年キャッシュが増え続け、社員がイキイキと働く、塗装の力で地域を幸せにする企業に変わっていったという体験報告をしていただきました。報告後参加者はそれぞれの課題を持ち寄りグループ討論で一人ひとりの問題を共有し、解決に向け意見交換し解決策を明確化しました。

何のために経営しているかを徹底して突き詰める

2回目は問題解決に向け、今後どのような取り組みをしていくか、参加者でシェアしました。川上氏は「経営戦略講座という何となくHOW TOだと思った人も多いでしょうが、やり方は他でのセミナーに参加し学ぶことはできません。でも、今回私が伝えたいのは、経営者が自らたかっただけの、経営者が自らブレない考え方を学び、何のために経営しているのかという想いの本質を伝えたいです。これが同友会での学びなのです。」と最後のまとめになりました。今後も青年部は本質を学んでいく学習会を開催していきます。

季節のちよつと健康アドバイス



おおしだみマッサージ指圧院 院長 大志民 衛氏
プロフィール
八戸市出身。神奈川や東京の訪問マッサージや指圧院、中国整体に勤め経験を積む。指圧や運動療法に加え、推拿（すいな）と呼ばれる中医学の整体観にもとづいた伝統療法で、不調の元を探し身体全体のバランスを整え、少しでも症状が改善できるよう一人ひとりに寄り添う。

これから本格的な寒さに向かう季節、皆さんはいかがお過ごしですか？私にとって盛岡の冬は初めての体験なので、どこまで寒くなるのかともドキドキしています（笑）

空気が澄んで気持ちのいい季節なのですが、「寒さ」は体に大きな負担をかけてしまっている、体の機能を十分に発揮出来なくなってしまう。しかし私達は生活の為にそんな過酷な状況でも行動しなければなりません。その為、いつも以上に負担のかかる季節であると意識して頂き、お身体の声に耳を傾けてケアをしてあげて下さい。何をしたらいいかわからない方もいらっしゃると思いますが、特に難しい事をする必要はありません。

まずは『体を冷やさない』。寒さに強い方でも、意外に手足の末端がとて冷えている事が良くありますので、触れて確認してあげて下さい。眠れない時も末端の冷えが関係している時があります。そんな時は、足湯をおススメします。意外と全身が温まりますので眠りやすくなりますよ。

もう一つは『ストレッチ』です。動くのが億劫に感じますが、家でゴロゴロしてしまいが少なくなっている時は、家の温かい環境で少し体を動かしましょう☆ストレッチは頑張った動かす等の負担をかける必要がないので、頑張る必要はありません。

浴中の筋肉が柔らかくなっている状態で行動すると、お体に負担をかける事なく効率良く伸ばす事が出来ます。

注意する点は、なるべく暖かい環境で行って下さい。寒い環境では筋肉が固くなりやすいため、そのような状態で行動すると筋肉を傷めてしまう可能性が高いからです。また痛みがある時はすぐ中止して、痛みがない範囲で行ってください。さらに筋肉が固くなったり、炎症がおきている可能性があり、痛みが強くなる可能性があるからです。

これらの点に注意して頂きながら、健康維持の為にのんびり無理のない範囲でやってみて下さい。



ドイツからの風



池田憲昭氏

プロフィール
1972年長崎県生まれ
岩手大学人文社会科学部(ドイツ文化専攻)卒業、フライブルク大学森林環境学ディプロマ課程(修士相当)卒業
フライブルク地域を拠点に、ドイツ環境視察セミナーのオーガナイザー、異文化マネージメントのトレーナー、企業サポーター、日独プロジェクトのコーディネーター、専門通訳、ジャーナリストとして活躍されています。2011年9月Arch Joint Vision社を設立 現代表。

バイオ炭

土壌改良剤としての「バイオ炭」が近年、ヨーロッパで大きな注目を集めています。バイオ炭は、木や稲藁など植物性の原料を無酸素状態で高温熱分解して生成した炭です。



岩手の文化である炭焼きの炭と製造の原理は同じです。

ヨーロッパでは、2020年末には、EUのバイオ農業(有機認証農業)において、バイオ炭が土壌改良剤としての使用が正式に許可されました。

しかしバイオ炭は、最近発明されたものではなく、アジアや南米をはじめ、太古の昔から人類が使用してきたものです。現在のブームの発端は、ブラジルのアマゾン川流域の奥地の痩せた土地で、過去の原住民がバイオ炭を活用して豊かな土壌を作り、生産性の高い農業を行っていたことが、民俗学の調査で見えられたことです。この土は、テラ・プレタ(黒い土)と名付けられ、2000年代になってから、バイオ炭の効能に関する研究が進みました。

バイオ炭の土壌での利用は、炭素固定につながります。

炭を生成する「蒸し焼き」の過程では、植物がその成長で固定した1/3から半分くらい

の炭素が空気中に放出されますが、残りは炭に固定されます。焼肉の炭焼きなどで、その炭を燃やしてしまえば、CO₂排出ニュートラルで

す。一方、バイオ炭として土壌の中に埋め込めば、炭は分解されずに1000年くらい固定されることが、考古学の調査でわかっています。

CO₂排出マイナスになるのです。またバイオ炭は、高レベルの温暖化効果ガスであるCH₄やN₂Oを生成する菌を抑制する働きもあります。

さらに、土壌に混ぜられたバイオ炭は、豊かな腐葉土の生成を促します。炭の超多孔質性による大きな表面積(1gの木炭で数百㎡)のおかげで、土壌の保水能力を著しく高め、酸素保有量を増や

します。それにより小動物や微生物が増加し、腐葉土が生成され、土壌が侵食にも強く、豊かになり、農産物の生産性も高まります。それによって

土壌中のCO₂固定量を間接的に増加させる働きもあります。土壌のCO₂固定能力については、近年になって本格的な研究が始まったばかりですが、大きなポテンシャルが見られています。フランスのINRAE農業・食料・環境研究所は、世界の土壌が毎年、0・4%ずつ炭素固定を増加

させるだけで(平均してそれだけの固定能力があることが推定されています)、人間が排出する二酸化炭素量を相殺できると試算しています。意識的に「腐葉土を増やす」農業をすることによって、気候変動抑制に貢献できるのです。

バイオ炭には、土壌改良剤以外の利用のポテンシャルもあります。畜産業において有用で、飼料に混ぜることで、動物の胃腸での消化を助けます。糞尿溜桶に投入すると、メタンの発生を抑制し、臭い消しにもなります。畜舎の敷

き糞に混ぜると、pH値が上がり、牛の蹄病の予防にもつながります。それらバイオ炭が混ざった糞尿や敷き藁を土壌に肥料として撒くことで、

土壌の腐葉土増産につながります。さらには、バイオ炭が重金属などの有害物質を固定して、植物に吸収されにくくする働きも確認されています。汚染された土壌の浄化作業に今後、バイオ炭を活用することも考えられています。

また、多孔質のバイオ炭は、建築の分野でも注目されています。高い調湿能力と断熱性能のポテンシャルへ期待が集まっています。現在、塗り壁材へ混入し、調湿能力を高めた、断熱材として使用することもできます。

炭の文化がある岩手。森も多く、稲作も盛んな地域。バイオ炭は、里山を豊かな森へ再生させるための間伐材や被害が広がっているナラ枯れ材、稲藁の付加価値の高い利用として、環境保全、農業の持続的な生産性向上、地域経済活性化につながるものだと思います。

中小企業のエネルギーヴェンデと農業・食の大転換、そして持続可能な社会づくりへ

岩手同友会のエネルギーシフト(ヴェンデ)研究会では、

この8年間に6回の欧州視察を行ってきましたが、私たちが訪問した山あいの小さな人口数千人のエネルギー自立村の多くが、同時に持続可能な地域づくりの実現へ向けて食と農の大転換(ヴェンデ)に取り組んでいました。今回はエネルギーヴェンデとともに、欧州で展開されるアグラヴェンデ(食と農の大転換)についてご紹介します。

欧州のアグラヴェンデは、これまでの慣行農業や食のシステムによって生じる環境負荷を解決したいという思いで生まれたものです。従来の生産方法による農業の環境負荷は、農業による地下水の汚染や生物多様性の激減、先進国の産業的な畜産のための飼料栽培を行うための熱帯雨林伐採などがあります。実はこうした問題は気候変動とも直結

しています。

2019年8月に発表された、IPCC特別報告書「気候変動と土地(Climate Change and Land)」は、農業生産やその加工・配送を含む食料システムとしての排出量についても言及しており、その量は世界の温室効果ガス排出量の21〜37%を占めると言われています。つまり農業と食の分野を抜いて気候変動や持続可能な地域づくりについて語ることはできません。

そして持続可能な地域づくりの側面では、付加価値を高めることでの農業生産者の経済の安定を支えることも課題となっています。

地域に付加価値を残すエネルギーと食の地域循環

この2年、毎年続けてきた欧州視察はお休みしています。その分新たに海外とのオンラインでの学び合いが日常

になりました。先日行ったス

イス在住のジャーナリスト、滝川薫氏をお招きしての学習会では、欧州のバイオホテルの革新的な取り組みについて、詳しく教えていただきました。

バイオ(Bio)とはドイツ語ではオーガニック・有機認証を受けた農家、加工業者、生産品のことを言います。日本ではまだ0.2%といわれる農業分野における有機認証ですが、欧州では既に大きなうねりが起きています。

有機農業は、土壌を豊かにすることによってCO₂を土壌に蓄積することも可能です。また動植物にも優しく生物多様性を向上させ、気候の保全にも寄与し、省エネルギー型・省資源型の農業とも言われています。農家にもその労力に対し適正な対価が支払われているので、資源と人そして経済的にも地域循環の大きな役割があります。

私たちが4年前に訪れたド

イツ・アイヒシュテッテン村のオーガニック食材の地域流通会社リーグリン社では、既に巨大な倉庫のすべてが自動化され、バーコードのついたウエアラブル端末で管理されていた。倉庫のすべての屋根に太陽光パネルが設置され電力を自家消費、そして

50〜60km圏内のスーパーや飲食業に配送先を絞り、付加価値の高い経営に取り組んでいました。バイオを原点に据えた一つの食料文化圏が実現して

いました。振り返るとエネルギーと食の地域循環を目的とした壮大な取り組みが既に始まっていたことに今、気づかれます。当時は中間のコストや輸送費用など限界費用がほぼゼロになる社会が、こんなにも早く到来するとは、考えもつきませんでした。その先見性に驚かされます。

厳しい資源マネジメントにより生まれる高い信頼

1999年にオーストリア、チロル州のホテルが100%バイオの食、飲み物を実現した

ことからスタートした「バイオホテル」への取り組みは、すでに20年を超えました。NPO法人バイオホテル協会の認証を受けた欧州のバイオホテルは、ドイツ語圏を中心に欧州6カ国に85のメンバーホテル、ベット数が約4200あります。家族経営が中心の個性ある中小企業経営者の共同体です。

このバイオホテル協会では、持続可能な食・農・観光の推進で競争力を強化していきたいとの思いで厳しい基準を設け、取り組んで来しました。

フード基準としては、バイオ食材を利用は勿論、ジビエは地元猟師から購入、天然魚は持続可能な漁業の認証を受けているものを購入などの基準があります。またノンフード基準は、企業をエコロジカルに持続可能に発展させるという原則の基準を掲げ、一泊一人あたりのCO₂排出量を明確に数値化するなど様々な厳しい基準があります。

ドイツの一般的なホテルではCO₂の排出量は、20kgから50kg(熱電気のみ)ですが、バイオホテルでは「一泊朝食付き

で9・64kgが平均です。業務全般のバリューチェーンを対象としたCO₂を尺度とした資源マネジメントに特化し、非常に高い信頼を確立し、バイオホテルのブランド化を実現しています。まさに付加価値としての域内循環が具現化されています。(滝川薫著「欧州のバイオホテル」ブックエンド)

中小企業の経営理念が 地域循環の発信源に

私たちが8年間で訪れた地域、企業は80箇所を超えます。その殆どにこうした独自の確立された理念がありました。そしてエネルギーも食材も、地域で生まれた資源を決してそのまま地域外に出さないという覚悟がどの地域にも企業にもありました。

ドイツ・ランデック村にある100%再生エネで生産する中小企業オッティリエンクウェッレ社 (Randegeat Ottilien-Quelle GmbH) は、地元の水資源を使い味付けや色合いまで自然資材のみを使用した環境系清涼飲料メーカーです。ペットボトル全盛

の中、再利用可能な瓶だけで商品を提供してきました。途中大きく落ち込んだ売り上げでしたが、現在は過去最高の販売量です。工場と社屋は太陽光で自家消費、敷地内にある大型チップボイラーからは工場と周辺地域の住宅への熱供給が行われています。そして物流を担うトラックも自社で手がけ、その販売範囲は会社の半径50km以内と決めています。これは瓶の回収が可能な距離から決めているものです。「どんなに苦しい時期もこれで越えてきた」と自慢げに話すフライシユマン社長の手には瓶のラベルにも印刷されている経営理念がありました。

スイス・エメンタール地方の山あいのメルヒナウ村では、たった一人の老練な農業経営者ドゥッペンターラー氏が、地域のために莫大な借金をして地域の間伐材チップのボイラーと太陽光を使った地域熱供給網を村中に張り巡らし、隣接したチーズ工場もその熱と電気を利用して経営していました。

この村では一人暮らしのお年寄りも増えていますが、それぞれの戸建ての住宅に供給される熱供給網はIOTで管理されており、朝水道の蛇口をひねると、一元化された画面に示される仕組みになっていました。勿論個人情報利用を限定した上で、命を見守る大動脈ともなっています。

「決して大切に育てた牛乳を生乳のまま外に出さない。」付加価値を付けて食料を域外に販売し、その利益を地域のエネルギー自立に生かす。その意思を貫く言葉が、今でも耳に残っています。

持続可能な未来づくり を自分ごととして

岩手のエネルギーシフト(ヴェンデ)研究会の8年間の取り組みは、こうした社会変革の原動力となる企業家の革新的な挑戦を学び、その行動に励まされ、実践を試みてきた時間だったといえます。

人口減少、少子高齢が今後益々進む地域の中で、中小企業家が地域の中核となり、地域全体で持続可能な地域を実現

するために知恵を出し合っ
て考え尽くす。これが働く社
員の豊かな未来を保証し、地
域に住む人々の豊かな生活を
実現し、次世代へのバトンを
引き継ぐための原点になるの
だと、私たちは欧州を繰り返し訪問する中で、身体に記憶し続けて来ました。

私たちのエネルギーシフト(ヴェンデ)研究会立ち上げの理念には、岩手のエネルギーと食の自立を2050年に実現することを掲げています。今後はエネルギーのヴェンデ(大転換)とともに、農と食のヴェンデが同時に求められるのではないのでしょうか。

毎回の視察でドイツ・ソーラーコンプレックス社のミューラー社長とお会いする度に言われていたことがあります。「どうして日本人はやらないのですか。既に世界には知恵も知識も技術も技能も十分にある。阻んでいるのは考え方ではないか。」

十分にやるべきことは学んだ。次世代に繋ぐビジョンも掲げた。そして私たちに必要なことは、一人ひとりが持続可能な未来づくりを自分ごととして考え、できることから取り組むこと。今こそ考え方を根本から大転換し、行動に移す。そして愚直にそれを積み重ね続けることなのだと思います。



熱供給網を説明するドゥッペンターラー氏(左)と滝川薫氏

素心知困

「さらけだす」と広辞苑で引くと、隠すところなく出す。ありのままをうちあける。と出てきます。同友会を説明するときに、「本音をさらせる会だよ。これってほかになんの特長だよ」と耳にすることが多くあります。▼でもいざ、できていない自分に気づいたとき、つい身構えてしまったり。お茶飲みに寄ってくださったある社長に聞いてみました。▼「社員の前では、表裏がまったくないんですか?」「前は結構格好付けてる自分がいたね。でも見透かされちゃう。どうせ何にもないんだから。自分から開かないと、社員も心開いてくれない。最初は怖いけどね。」「怖いって何が?」とは愚問なので聞かずに別な話題に。▼今回のエネルギーシフト(ヴェンデ)の連載。ミユラーさんの「どうしてやらないんですか?」との問いかけにピクッときた人は多いでしょう。▼誰かが言っていました。「企業家」とは柔道家や武術家と同じ。道を究めようとしている人。だから「家」がつくんだよ。そう聞くと寒空でかじかんだ身体が、益々固くなっ

■本紙掲載の例会や諸事業には、所属支部に関係なくどこにでも参加できます。ご連絡下さい。■例会や役員会などのカレンダーと事業案内を随時更新しています。■本紙掲載事業への出欠返信は、同封のファックス返信用紙またはedyuをご利用下さい。

物を大切にし環境にやさしくありたい 使わない人から使いたい人へ
総合リユースショップ **DokiDoki 2nd STREET**

(株)トータル・リユース
代表取締役社長 **伊瀬 幸郎**
ise yukiyo

本社 〒026-0041 岩手県釜石市上中島町2-2-33
TEL:0193-21-2126 FAX:0193-21-2127
携帯 090-8780-3296
E-mail: trise@arion.ocn.ne.jp

TUENO

包装設計のプロフェッショナル「東北ウエノ」は、
「適材適包」でお客様をサポート致します。

「PACKAG ENGINEERING」

詳しくはホームページで <https://www.touhokuueno.co.jp/>

株式会社東北ウエノ
〒021-0893 本社：一関市地主町3-35 TEL:0191-21-4531
テクニカルセンター：一関市地主町7-15 TEL:0191-32-5020
輸送包装便算.com <https://www.transport-package.com/>

**オリジナルラベル
ワインを作成します**

周年記念、御中元、お歳暮、ノベルティ等

SHIWA 有国自醸ワイン紫波 岩手県紫波町産ぶどう100%
社名ロゴ 写真 OK 包装、のし無料 12本以上 作成料無料

お申し込み・お問い合わせ
Tel. 019-676-5301
自国自醸ワイン紫波 (株)紫波フルーツパーク
醸造元
〒028-3535 岩手県紫波郡紫波町遠山字松原1-11

人と自然にやさしい
環境を創り
地域型企業として
貢献します。

岩手日化サービス株式会社
〒020-0402 盛岡市黒川 22-56
TEL 019-696-5611 FAX 696-5614

めだか

有限会社いわてにつかコミュニティ企画
(事業内容) デイサービス / 生活介護 / 訪問介護 / 住宅型有料老人ホーム
児童デイサービス / 相談支援事業所 / 訪問看護 / 就労継続支援 B 型

Southern Iwate DSG サザン岩手ドライビングスクールグループ
Southern Iwate Driving School Group

陸前高田ドライビングスクール 三陸技能講習センター
RIKUZENTAKATA DRIVING SCHOOL Sanriku skill training center

平泉ドライビングスクール 遠野ドライビングスクール
HIRAIZUMI DRIVING SCHOOL TOHNO DRIVING SCHOOL

携帯サイトはこちら
<http://www.si-dsg.com/>
/mobile

注文すると「明日」来る。
オフィス・事務用品通販なら「アスクル」で

日用品 消耗品 文房具 飲料 工具

外出せずにFAX、Webにてご注文できます！
ご登録・お問い合わせは平金商店へお待ちしております。
<https://www.askul.co.jp/ag/hirakin/>

ASKUL AGENT 株式会社 平金商店
アスクルエージェント TEL:019-624-2121

ゆたかな幸せのために、より良い環境創りで
真の循環型社会を目指します。

浄化槽保守点検 植物 BDFの製造・販売 エネルギー節約 CO2

紫波環境株式会社
岩手県紫波郡紫波町南日詰字小路口70-1
TEL:019-672-2656 FAX:019-601-2686
<http://shiwakankyo.com/>

し尿・浄化槽汚泥収集運搬

DOYU
I W A T E
同友いわて
2021
Vol.155

発行／岩手県中小企業家同友会
広報委員会

〒020-0878 岩手県盛岡市肴町4-15 カガヤ肴町ビル3F
TEL 019-626-4447 FAX 019-626-1644
Mail: info@iwate-doyu.jp